

ニッパツ80周年

80年の歩み～様々なターニングポイント

2019年9月、創立80周年を迎えた当社。

1939年の創立から今日までの歩みの中には、いくつかの重要なターニングポイントがありました。

100年企業を目指して、今後も真摯にものづくりに取り組んでいきます。

1939 ニッパツ創立、芝浦から磯子へ移転

当社の創立は、東京・芝浦の「芝浦スプリング製作所」を買収したことに始まります。同社は個人企業として自動車補修用のばねから始まり、業容を拡大していました。

1939年9月8日、社名を「日本発条株式会社」としました。当時、材料などの輸送は船が主体であったため、1940年11月、本拠と工場を磯子に移転し、最先端を行く近代化工場として、板ばねの生産を開始しました。その後、第二次世界大戦などの苦難の時代を乗り越えながら、ショットピーニングの導入などの開発や生産革新を重ね、高い技術力を背景に躍進していくことになります。



1961 シート事業に参入

当社は1949年から、進駐軍向けのシートスプリングを長野県で生産していましたが、事業拡大にともない、輸送コスト改善のため、自動車メーカーに隣接した地域での生産が必要となりました。

そして1961年、名古屋工場(現豊田工場)を新設し、翌年にはシート川崎工場を新設しました。米国ロックウェル社との技術提携により、鼓型ばねから生産性向上と軽量化が図られるSばねに切り替え、これを他社に先駆けて生産するようになりました。その後、1964年からウレタン一体発泡シートの生産を開始し、シート事業は堅調に拡大していきました。



1930

1940

1950

1960

1970



1957 合併を経て、ばねのトップメーカーに

「神武景気」と称された1955年からの大型景気の一環、ばね業界はシェア争いが一段と激しさを増してきました。共倒れを危惧した当社は、業界再編成の急先鋒となり、1957年春、業界の三指に入る大同製鋼のばね部門との合併へと踏み切りました。同年12月、大同製鋼は、当社との合併を前提に、大同発条を設立しました。こうして翌年5月、当社と大同発条の合併が実現しました。これにともない、大同発条の川崎工場は、当社の川崎工場となりました。この時、資本金も5億円に増資され、ばねのトップメーカーとしての地位を確立しました。

1963 初の海外拠点タイニッパツ設立

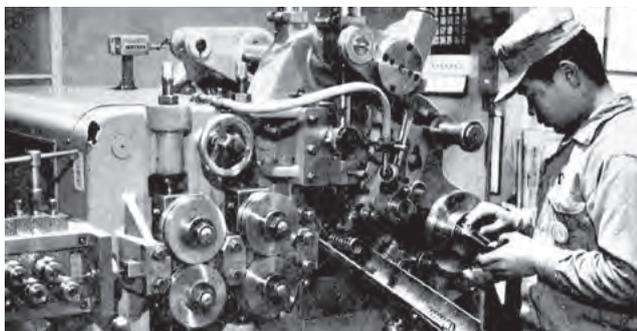
1963年、当社は自動車部品メーカーとしては初めて、タイに進出しました*。当時、早くも東南アジアや南米からの板ばねの引き合いが来て、海外生産の足固めが始まっていました。この頃の東南アジアでのばねの需要は補修用が中心でしたが、1959年には、国内需要が300トンであったのに対して、当社は100~150トンを輸出していました。こうした中で、苦労の末にタイニッパツ設立の認可を取り付けました。

タイニッパツはその後、各地に拠点を設け、自動車分野以外にも業容を拡大して、当社グループの最重要拠点の一つとして躍進しています。

*当社より矢崎総業が先にタイに進出していますが、自動車部品事業としては当社が初めてとなっています。

1970 精密ばね事業の強化

線ばねおよび薄板ばねは、両方とも1960年代から需要が拡大してきました。当社は精密ばね分野へ本格的に進出するため、伊那(1963年に宮田から改称)と川崎の2工場体制を構築しました。しかし小物ばねは、少額資金で事業を興せるため、小規模企業が乱立していました。当社はより精密な製品、より先進的な生産技術で勝負するために、最新鋭の設備を導入するなど、生産技術を確認していきましました。1970年、川崎工場の精密ばね事業は、厚木工場に移管しました。こうして精密ばね事業は拡大を続けました。



1991 横浜の新事業所に大移転

昭和40年代に計画策定が開始された東京湾岸道路は、磯子区にあった当社の本社・横浜事業所の土地を通ることから、横浜市金沢区に代替地をもらうこととなり、移転が本格的に始動しました。1987年、自動車懸架用コイルばねの工場建設開始を皮切りに、翌年にはシート棟の建設も始まりました。また、これらと並行して本館棟、開発実験棟、厚生棟、厚生年金基金会館(現体育館)などが建設されました。1991年、本社、横浜工場、川崎工場、根岸分室の各部門、日発グループ中央研究所(後に研究開発本部に統合)がすべて横浜新事業所に移転し、今日に至っています。



1980

1990

2000

2010

2020



1980~ 非自動車分野の開拓

1976年に発表された中期経営計画では、「既存の自動車関連製品以外の売上高を総売上高中の40%にする」と明確にうたわれており、当社は本格的な事業の多角化の時代を迎えました。パイプハンガーや機械式立体駐車装置などの産機製品が開発・生産され、その後、プラント部門に続く柱として注力したのは化成事業でした。また、1986年には電子部品部を新設し、金属基板の生産に乗り出しました。さらに、1990年にはろう付事業を立ち上げたほか、情報関連機器事業から発展したセキュリティ事業は、偽造防止技術で世界でも高い評価を受けています。



2010~ 積極的なグループ・グローバル展開

2000年代は、リーマンショック、東日本大震災、タイの大規模な洪水など、様々な苦難もありましたが、当社はグループをあげて堅調に成長してきました。

2010年代に入ると、アジアや中米などにも新拠点を設け、グローバル対応を加速させました。また、2015年には、欧州メーカーへの拡販の足掛かりとして、東欧での初となる生産拠点をハンガリーに設立しました。当社のグローバル展開は「地産地消」をベースとして、それぞれの地域に根ざした地元企業として愛されることを目指しており、これからもこの思いは変わりません。